

《総説》

骨の核医学

福永 仁夫* 大塚 信昭* 曽根 照喜*

* 川崎医科大学放射線科 (核医学)

要旨 ^{99m}Tc 標識リン酸化合物による骨シンチグラフィは、本邦での全国調査において最も頻度の高い核医学検査であり、種々の骨疾患の病変の検出、病状の進行や治療に対する反応の評価に用いられている。本稿では、骨シンチグラフィ (平面像, SPECT, 早期血流相や定量化) や骨髄シンチグラフィを含む核医学手法だけでなく、骨塩定量や骨代謝マーカー測定など近年開発された方法による骨転移の診断感度と特異性の改善についての総説である。さらに、骨転移による頑固な骨痛の RI 治療についても概説する。

(核医学 36: 7-14, 1999)